

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は 発表学会等の名称	概 要
(著書(欧文)) 1. 2. 3. 4.				
(著書(和文)) 1. 2. 3. 4.				
(学術論文(欧文)) 1. 2. 3. 4.				
(学術論文(和文)) 1. ケニアの都市に住む HIV/AIDSと共に生き る人々のQuality of Life 2. 新人保健師に期待す る実践能力 -A 県 市町の管理期保健師 のインタビュー分析 -(査読付き)	単著 共著 塩澤百合 子, 野尻由 香, 会沢紀 子, 板垣昭 代, 安藤は るか	2008年3月 2021年10月	日本赤十字看護大学 修士論文 日本地域看護学会 誌, 第24巻第3号, pp. 34-42.	ケニア・ナイロビのスラムで生活す るHIV感染者を対象にしたQuality of Lifeに関する調査研究 A県市町の8名の保健師へのインタ ビューから、管理期の保健師が新人 保健師に期待する実践能力を明らか にした研究。
(紀要論文) 1. A大学学生の地域看 護学実習における地 域保健施設での学び -実習レポート「地 域看護学の特性」の 分析から- (査読付き) 2. 保健師・看護師統合 カリキュラムにおけ る公衆衛生看護学実 習の実習経験内容分 析と課題 (査読付き)	共著 神山幸恵, 会沢紀子, 岡本菜穂 子, 石川由 美子 共著 板垣昭代, 相原綾子, 会沢紀子, 塩澤百合 子, 野尻由 香	2015年3月 2017年3月	獨協医科大学看護学 部紀要, 第8号, pp. 47-59. 獨協医科大学看護学 部紀要, 第10号, pp. 57-64.	学生の公衆衛生看護実習(保健セン ターと保健所)レポートを精読して、 学びの部分をコードとして抽出し、 カテゴリー化によりまとめた研究。 学部必修の本学の公衆衛生看護実習 (保健センターと保健所)での経験項 目と、公衆衛生看護を選択制として いる大学の資料を比較して実習経験 を評価した研究。

<p>3. 公衆衛生看護学実習の実習経験内容と目標達成度の分析</p>	<p>共著 相原綾子, 板垣昭代, 塩澤百合子, 野尻由香, 会沢紀子</p>	<p>2018年3月</p>	<p>獨協医科大学看護学部紀要, 第11号, pp. 29-38.</p>	<p>学部必修の大学の公衆衛生看護実習(保健センターと保健所)での経験項目と目標達成度の関係を検定し、地区活動の実習の学びが最も有効であることを明らかにした研究。</p>
<p>4. 統合カリキュラムの保健師教育が卒業後の看護実践で役立っている内容—調査票の自由記載から—</p>	<p>共著 塩澤百合子, 板垣昭代, 野尻由香, 会沢紀子, 鈴木達也, 金子昌子</p>	<p>2019年3月</p>	<p>獨協医科大学看護学部紀要, 第12号, pp. 49-60.</p>	<p>基礎教育で学修した保健師教育を、卒業生が臨床・臨地でどう生かしているのかを調査した報告。</p>
<p>5. B町で生活する高齢者の睡眠状況と健康状態および生活習慣との関連(査読付き)</p>	<p>共著 会沢紀子, 宮本雅之, 丸井明美, 金子昌子, 石川由美子</p>	<p>2020年3月</p>	<p>獨協医科大学看護学部紀要, 第13号, pp. 49-60.</p>	<p>地域で生活する比較的健康な高齢者を対象に睡眠状態、健康状態、生活習慣を調査した結果、睡眠状況は良好で、外出習慣と睡眠状況に関係を見出だした研究。</p>
<p>6. A大学看護学部卒業生の動向調査—就業状況を中心に—(査読付き)</p>	<p>共著 塩澤百合子, 板垣昭代, 野尻由香, 会沢紀子, 鈴木達也, 金子昌子</p>	<p>2020年3月</p>	<p>獨協医科大学看護学部紀要, 第13号, pp. 73-86.</p>	<p>卒業生の就業先、離職理由、転職回数、現在の職種など卒業後の就業状況を調査した報告。</p>
<p>(辞書・翻訳書等)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 				
<p>(報告書・会報等)</p> <p>出産・育児をする外国人住民の困難と支援者の葛藤への取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 組み 2. 3. 4. 	<p>共著 会沢紀子, 塩澤百合子, 板垣昭代</p>	<p>2022年9月</p>	<p>地域ケアリング</p>	<p>在留外国人の母子保健は、当事者はもちろんサービス提供者も困難や課題を抱き、健康に関する重要課題で、本稿では両者の課題を取り上げ、著者らの活動を紹介した。</p>

<p>(国際学会発表)</p> <p>1. Tendency of Studentes' Learning Reflections from Clinical Public Health Nursing□</p> <p>2. Body mass index, demographics, and Health conditions of older Japanese</p> <p>3. Process of decision-making regarding initiation of dialysus by patients aged 75 and above</p> <p>4. New Challenges for International Activities during COVID-19</p> <p>5. Social Networks of Foreign Residents in Japan and Disaster Experience through Social Networks.</p>	<p>共著 <u>Noriko Aizawa</u>, Yumiko Ishikawa, Yukie Kamiyama</p> <p>共著 Yumiko Ishikawa, Akemi Marui, <u>Noriko Aizawa</u>, Shoko Kaneko, Yukie Kamiyama</p> <p>共著 Ayako Ogura, Sumie Suzuki, Shoko Kaneko, <u>Noriko Aizawa</u></p> <p>共著 Akiyokitagaki, <u>Noriko Aizawa</u>, Tamami Suzuki, keiko Nishioka, Takafumi Nogichi, Haruka Ando</p> <p>単独</p>	<p>2015年8月</p> <p>2016年8月</p> <p>2016年9月</p> <p>2020年11月</p> <p>2022年2月</p>	<p>The 6th International Conference on Community Health Nursing Research 発表 (韓国, ソウル市)</p> <p>The 6th Asia-Pacific Conference on Public Health (タイ王国, バンコク)</p> <p>45th EDTNA/ERCA International Conference (スペイン, バレンシア)</p> <p>The 5th International Online Conference on Nursing and Midwifery (モンゴル共和国・オンライン)</p> <p>6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing (大阪, 日本, オンライン)</p>	<p>学生の実習での学びをレポートより分析した結果報告</p> <p>高齢者のBMIと社会経済状況及び健康状態についての報告</p> <p>75歳以上の高齢者の透析導入における意思決定のプロセスに関する報告</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大により、海外研修が中止になる中、オンラインによる海外の提携大学との交流や、教職員による海外活動の紹介を活用し、学生への国際的視点を養う機会の提供を検討、工夫した取り組みを振り返り報告した。</p> <p>外国人住民のソーシャルネットワークと災害時のソーシャルネットワークを通じた経験について14人のインタビューから質的に分析した研究</p>
<p>(国内学会発表)</p> <p>1. 「食事摂取困難患者へのケア -KOMIチャートを利用して-」</p>	<p>単独</p>	<p>平成9年12月</p>	<p>第3回 栃木県看護学術集会 (栃木, 宇都宮市)</p>	<p>食事摂取が困難になっていた患者の評価を、KOMIチャートを用いて行い、そこから援助の焦点を絞って行った看護過程の報告</p>

2. 産婦人科におけるアナムナーゼ用紙を作成して一ポルトガル語・スペイン語版一	共同 山本ひとみ, <u>会沢紀子</u>	平成12年12月	第6回 栃木県看護学術集会 (栃木, 宇都宮市)	産婦人科病棟に入院する、南米出身の患者および産婦のためのアナムナーゼ用紙の開発の過程と結果について報告
3. アフガニスタン・バーミヤンでの、赤十字国際委員会の看護活動についての実践報告	単独	平成15年6月	第4回 日本赤十字看護学術集会 (広島, 広島市)	アフガニスタン・バーミヤンでの、病棟看護と看護教育支援活動に関する実践報告
4. 臨床における看護診断ラベル、指標、因子の使用状況—整形外科病棟における研修前後の比較評価—	共同 <u>会沢紀子</u> , 久保知子	平成16年6月	第5回 日本赤十字看護学術集会 (東京, 渋谷区)	整形外科病棟で使用される看護診断のラベル、指標、因子の実態調査と、教育研修による変化の報告
5. 看護職への教育・訓練 成果と課題—アフガニスタン医療復興支援事業—	単独	平成17年10月	第41回 日本赤十字社医学会 (島根, 松江市)	アフガニスタン・タロカンでの、政府病院に対する復興支援と看護教育支援活動に関する実践報告
6. タイのHIV・AIDSに関する現状	単独	平成18年10月	第13回栃木県HIV感染症研究会 (壬生町, 栃木県)	タイ国におけるHIV/AIDSの感染拡大の背景と感染者が抱える医療及び社会的な課題への対策について、現地での研修で学んだことを報告
7. ケニアのHIV・AIDSと共に生きる人々のQOL	単独	平成19年10月	第14回栃木県HIV感染症研究会 (壬生町, 栃木県)	ケニア共和国のスラムでHIV/AIDSと共に生きる人々約200人を対象に行ったQOLの調査で、薬剤の支援は十分な一方栄養が不十分な実態や、QOLの値は精神的な項目が高い結果を報告
8. 高額医療機器(CT/MRI)共同利用に向けての報告	共同 <u>会沢紀子</u> , 菅麻美, 中三川幸子	平成20年10月	第44回 日本赤十字社医学会 (北海道, 釧路市)	高額医療機器を地域の医療機関に提供するための課題とその克服、院内調整に関する過程について報告
9. 2次救急患者の紹介に関する地域医療連携としての取り組み	共同 <u>会沢紀子</u> , 吉川恵子, 中三川幸子	平成21年10月	第45回 日本赤十字社医学会 (群馬, 前橋市)	地域の医療機関からの2次救急患者の受け入れに関する課題から、院内改革と体制整備に至った過程とその成果の報告
10. 脳卒中地域連携パス使用の現状	共同 <u>会沢紀子</u> , 中三川幸子	平成21年10月	日本医療マネジメント学会 第9回栃木地方会 (栃木, 宇都宮市)	脳卒中地域連携パスの運用状況(実数、対象患者、当病院の傾向)と連携病院とのコーディネーションについて報告
11. HIV/AIDSと共に生きる方々への支援の検討 —ケニア共和国の都市で—	単独	平成30年7月	第59回社会医学会総会 (栃木, 壬生町)	ケニアの都市の医療施設2箇所でのHIV/AIDSと共に生きる人々へ行ったインタビューから、困難に感じていることとを整理して必要な支援について検討した報告
12. 海外研修に伴う学習の評価と課題	共同 <u>会沢紀子</u> , 板倉朋世, 板垣昭代, 相原綾子	平成30年9月	日本国際看護学会第2回学術集会 (福島, 福島市)	2018年3月に実施したフィリピン国への研修に参加した学生のアンケート結果から、研修と研修事前事後学習についての評価を行い課題を明らかにした報告

13. フィリピン海外研修における看護学実習を経験しての学び	共同 井上浩平, 磯美帆, 鹿児島大賀, 堀口郁美, 渡邊雅佳, 会沢紀子, 板倉朋世	平成30年9月	日本国際看護学会第2回学術集会 (福島, 福島市)	2018年3月にフィリピン国での研修に参加した学生自身が、経験を通しての学びを振り返り考察をした報告
14. 統合カリキュラムで保健師教育を履修した卒業生の動向-第1報 卒業生の就業状況の分析-	共同 会沢紀子, 塩澤百合子, 板垣昭代, 野尻由佳, 相原綾子	令和元年1月	第7回日本公衆衛生看護学術集会 (山口, 宇部市)	開学から10年を経過したA大学看護学部の卒業生の就業状況を明らかにした報告
15. 統合カリキュラムで保健師教育を履修した卒業生の動向-第2報 卒業後の看護実践における認識-	共同 塩澤百合子, 会沢紀子, 板垣昭代, 野尻由佳, 相原綾子	令和元年1月	第7回日本公衆衛生看護学術集会 (山口, 宇部市)	A大学看護学部の卒業生が、卒後の看護実践において保健師教育で学んだことがどのように役立っていると認識しているかを明らかにした報告
16. B町で生活する60歳以上の高齢者の睡眠状況と、健康状態及び生活習慣の関連	共同 会沢紀子, 宮本雅之, 丸井明美, 金子昌子	令和元年6月	第44回日本睡眠学会定期学術集会(愛知, 名古屋市)	地域で生活する比較的健康な高齢者を対象に睡眠状態、健康状態、生活習慣を調査した結果、睡眠状況は良好であり、地域住民を対象に健康教育を実施した報告
17. 係長級保健師が新人保健師に期待する実践能力	共同 塩澤百合子, 板垣昭代, 野尻由香, 会沢紀子	令和元年8月	第22回日本地域看護学会学術集会 (神奈川, 横浜市)	A県市町の4名の保健師へのインタビューから、係長級の保健師が新人保健師に期待する実践能力をまとめて報告
18. 外国人の父親・母親を中心とした子育て支援	共同 会沢紀子, 塩澤百合子, 板垣昭代, 野尻由香	令和元年9月	第2回日本国際看護学会学術集会 (神奈川, 横浜市)	外国人住民4名に医療機関を受診した際の思いをインタビューしてまとめた卒業研究を洗練させて報告
19. 日本に住む外国人が医療機関を受診した際の思い	共同 川上恵理, 会沢紀子	令和元年9月	第2回日本国際看護学会学術集会 (神奈川, 横浜市)	外国人住民5名に医療機関を受診した際の思いをインタビューしてまとめた卒業研究を洗練させて報告
20. フィリピン海外研修における看護学実習を経験しての学び	共同 熊倉綾乃, 鶴田菜緒, 荻野雄生, 会沢紀子, 板倉朋世, 野口貴史	令和元年9月	第2回日本国際看護学会学術集会 (神奈川, 横浜市)	2019年3月にフィリピン国での研修に参加した学生自身が、経験を通しての学びを振り返り考察をした報告

21. 実習を通して学生が捉えた産業保健師の役割と機能	共同 塩澤百合子、板垣昭代、野尻由香、 <u>会沢紀子</u>	令和元年12月	第47回獨協医学会学術集会 (栃木, 壬生町)	17. で発表した内容に、4名の保健師のインタビューを追加したものを分析して、係長級の保健師が新人保健師に期待する実践能力を明らかにした研究報告
22. 係長級保健師が新人保健師に期待する実践能力(第2報)	共同 塩澤百合子、 <u>会沢紀子</u> 、野尻由香、安藤はるか、板垣昭代	令和2年8月	第23回日本地域看護学会学術集会オンライン開催	産業保健実習で学生の記述したレポートをKHコーダーにてテキスト分析を行い、共起ネットワークを用いて学びの実際を把握し報告
23. 妊娠・出産・育児に関する外国人の認識と支援ニーズーイベントに参加した外国人住民のアンケートとインタビューからー	共同 <u>会沢紀子</u> 、塩澤百合子、板垣昭代、野尻由香、安藤はるか	令和3年1月	第7回日本公衆衛生看護学会学術集会・オンライン開催	7名の外国人の子育て中の親に、日本での妊娠・出産・育児に関する出来事を理解して対応できたか調査し、さらに3名から調査内容に関するインタビューを行い、認識と支援ニーズを明らかにした
24. A病院の無料健康診断会に参加する外国人の健康問題と生活習慣	共同 安藤 はるか、板垣昭代、 <u>会沢紀子</u>	令和3年8月	第24回日本地域看護学会学術集会・オンライン開催	A病院の無料健康診断会を受診した外国人の約30名に対して健康状態と生活習慣を調査し、記述統計にて結果を報告
25. A病院の無料健康診断会に参加する外国人の健康問題と生活習慣-インタビュー調査より-	共同 安藤 はるか、 <u>会沢紀子</u> 、西野義崇、板垣昭代	令和3年10月	第36回国際保健医療学会学術集会・オンライン開催	24. の調査に追加して、3名の対象者に来日後の変化に焦点を当てた健康状態と生活習慣をインタビューし分析した研究
(招待講演・基調講演) 1. 2. 3. 4.				
(受賞(学術賞等)) 1. 2. 3. 4.				

研 究 活 動 項 目						
助成を受けた研究等の名称	代表, 分担等 の別	種 類	採択年度	交付・ 受入元	交付・ 受入額	概 要
(科学研究費採択) 1. 外国人住民が災害への備えを高めるためのプログラム構築に向けた基盤研究 2. 3. 4.	代表	基盤研究(C) (一般)	令和4年度	常磐大学	2340000	本研究は、外国人住民の社会的ネットワークに着目し、社会的ネットワークのあり様と災害時の備えには何らかの関係があるのではないかという研究疑問に基づいて探索し、社会的ネットワークを活かした災害の備えを高めるためのプログラム構築の基盤とする
(競争的研究助成費獲得(科研費除く)) 1. 2. 3. 4.						
(共同研究・受託研究受入れ) 1. 2. 3. 4.						
(奨学・指定寄付金受入れ) 1. 2. 3. 4.						
(学内課題研究(共同研究)) 1. 2. 3. 4.						
(学内課題研究(各個研究)) 1. 2. 3. 4.						
(知的財産(特許・実用新案等)) 1. 2. 3. 4.						